

九州におけるシイタケ生産の現状と将来の展望

座長 鹿児島大学農学部 徳 重 陽 山

九州におけるシイタケの生産は、乾シイタケで4700トン、生シイタケで2153トンと全国生産のそれぞれ56%、5%と、九州の優位を示しています。また、シイタケは自然食品としての風味や薬用として効用が認められ、時流にそった貴重な食品として、その需要は増加の一途をたどっています。

昔、シイタケ栽培は、長年の経験や勘に頼った名人芸的な個人技術で行われていましたので、当り外れの大きな投機的な仕事とみなされていました。しかし、近年種菌利用の開発、品種の改良、栽培法の検討などが進み、誰でも実行できる新しいシイタケ生産技術ができあがったので、シイタケ栽培は飛躍的に安定した産業になりました。この新技術の開発によって、シイタケ栽培は広く僻地の農山村にまで普及したのであります。いまや、シイタケ生産は農山村における副業として、また換金の早い商品生産業として、農山村の経営基盤を補強する主要産業になっています。

このように発達してきたシイタケ栽培ですが、立地環境条件によってその栽培の成否が大きく影響を受けることは避けられませんし、数年前から、シイタケ原木の涵かつ、シイタケ栽培に大被害を与える害菌の発生、流通機構の立ちおくれなどの諸問題が続出して、シイタケ栽培の将来性を危ぶむ声さえきかれるようになりました。ここに、シンポジウムの議題としてシイタケ問題を取りあげたのは、一般の要望も多く時宜にかなった議題であったからであります。ただ、食用きのこ類とするか、シイタケに限るかの議論はありまし

たが、時間不足などを考えて、一応シイタケを取りあげることになりました。

最後に、問題の取り上げ方ですが、シイタケ問題を単にシイタケ生産といった専門的立場だけではなく、林業の多角経営の一貫として取り上げ、林業という広い立場でこの問題に取り組まなければ、より安定した産業への足がかりはつかめないと考えました。そこで、日頃シイタケ問題に直接関係しておられる専門の講師の方々から、下に掲げた演題で話題を提供していただき、これを中心に林政、経営経済、育林、保護部門などシイタケ栽培の各分野からの幅広い討議をお願いし、シイタケ問題の全ぼうと問題点を明らかにして、その対応策を模索し、将来を展望したいと期待しています。

1. シイタケ原木林の造成確保とその対策
……………大分県林業水産部長 野 愛 人
2. シイタケ生産技術の現状と問題点
……………宮崎県林業試験場 伊 藤 英 彦
3. シイタケ栽培を阻害する害菌問題
……………林業試験場九州支場 安 藤 正 武
4. シイタケ流通機構の近代化
……………九州大学農学部 吉 良 今朝芳